

科目名	日本語実習	後期	実習	2 単位
サブタイトル	模擬実習			
担当者	安原 順子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[ 到達目標 ] グループ発表を通して、模擬実習の経験を積むことを目標とする。</p> <p>[ 授業概要 ] 日本語教員養成講座の総まとめとして、模擬実習のための教案を書き、各グループで模擬実習を行う。模擬実習では、実習前に何度か実習案について指導を受け、実習後はその内容について受講者全員で討論する。4回生の模擬実習のみの受講は認めない。また、4回生時に、日本語教員養成講座のすべての単位を取得することも認めない。</p> <p>[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ] 発表グループの担当する課を事前に読んでから、授業に参加すること。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模擬実習の準備</li> <li>2. 模擬実習の実際</li> <li>3. 模擬実習 グループ1</li> <li>4. 模擬実習 グループ2</li> <li>5. 模擬実習 グループ3</li> <li>6. 模擬実習 グループ4</li> <li>7. 模擬実習 グループ5</li> <li>8. 模擬実習 グループ6</li> <li>9. 模擬実習 グループ7</li> <li>10. 模擬実習 グループ8</li> <li>11. 模擬実習 グループ9</li> <li>12. 模擬実習 グループ10</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	日本語実習	後期	実習	2 単位
サブタイトル	模擬実習			
担当者	安原 順子			
<p>[ 成績評価方法 ]  模擬実習 (80%)、授業態度 (20%)</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ]  模擬実習前には教育実習案について、模擬実習後には模擬実習についてコメントし、フィードバックを行う。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 日文1-1 / 日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。  成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 日文2-3 / 内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。  成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 日文3-1 / 自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。  成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 日文3-4 / 日本語学習を必要とする人の多様性を知り、修得した日本語教育に関する知識や技能を用いて社会に奉仕することの意義を理解している。  成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 多様性理解 / 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 表現力 / 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: 模擬実習、受講態度</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  『みんなの日本語初級 I 』第2版 著者名: 鶴尾能子 出版社: (スリーエーネットワーク) (978-4-88319-603-6)</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  なし</p>				